



イギリス・BICC 中国都市研究ネットワーク会議の参加報告

孫 安石 (非文字資料研究センター 研究員)

2014年1月、イギリスのAberdeen大学で開催されたBICC中国都市研究ネットワーク会議に参加する機会を得た。私の場合、2日間の実会議に参加するために、ロンドン経由で乗り継ぎ15時間のフライトを利用し、時差のあるイギリスまで行くわけであるからなかなかの強行軍であったといえる。しかし、このような強行軍をしてまでも参加を決めた理由は、一つは報告者とコメントーターを合わせると合計で40名前後のイギリス在住の中国研究者と交流ができるということと、もう一つは、上海史研究の旧友で、いまは中国の海関研究で著名なBristol大学(イギリス)のBickers教授からイギリスで活躍する中国の若手研究者の活動をみたほうが良いというアドバイスがあったからであった。

会議では期待した通り、イギリスに留学中、またはすでに留学を終え、イギリスの大学で教鞭をとっている多くの中国人研究者と交流することができ、多くの新たな知見を得ることができたので、その一部をここで紹介したい。ただし、残念ながら報告のすべてについて触れることは筆者の能力を超えるものであり、紙面の余裕もないので、ここでは最も印象に残っている3名の方の報告を取り上げるに留める。

まず、最初は上海における都市衛生問題として上海租界でどのような方策がとられたのかを論じたDr. Huang Xuelei(Univ. of Edinburgh)の“*Deodorizing China: Odour, Ordure, and the Colonial (Dis)order in Shanghai, 1840s-1940s*”報告である。この報告は、清末の欧米人の中国経験を書き留めた多くの記録によれば、悪臭が漂う遅れた中国と、ネオン・サインが輝く文明化された上海租界を描写するものが多いが、果たして上海租界ではどのような衛生対策が取られているのか、と問いかけている。

とくに医療分野の宣教活動に従事したW. Lockhart(1811-1896)の記述によれば、そもそも揚子江の下流の運河に巡らせていた上海のイギリス租界の立地条件自体は極めて劣悪なものであった。中国人の住宅はこの不潔な衛生状況をさらに悪化させるものであったから、その劣悪な状況は容易に想像できる。ところが報告者は、産業革命を迎えた初期のイギリスも実は劣悪な衛生状況に直面していたことを忘れてはならないと指摘する。実は、衛生問題は、遅れた中国が直面した問題だけではなく、同時代の世界が経験した共通の問題であったのである。

次の“*The Relationship between the Harbor Coolies and the Spatial Character of Shanghai Whangpoo Harbor, 1880s-1930s*”(Dr. Chen Yunlian, University of Cambridge / Nagoya University)は、20世紀初期の上海の共同租界の道路と港湾建設を一手に握っていた工部局が黄浦江管理局に命じた港湾のインフラ建設の様子と1930年代を前後して行われたイギリスのB&Sスワイア商会(Butterfield & Swire Co.Ltd)によって建設、運営されたフランス租界と浦東地区における港湾施設(棧橋、埠頭、倉庫のほか港湾労働者の施設など)の実態を紹介するものであった。B&S商会のロンドン本社の資料などを駆使した研究成果によれば、B&S商会は船上から陸へ貨物を運搬する動線を最大限に利用し、倉庫とその他の施設を建設し、労働者の宿泊施設、税関管理員、倉庫管理者などのための住宅設備などを包括した設計を担っていたという。

次の報告“*Children in rural-urban migration in contemporary China*”(Dr. Nana Zhang, University of Warwick)は現代中国が直面している都

市と農村間の人口移動の中でも、とくに、地方の留守家庭に残る子供を扱ったテーマであった。この報告は、北京と遼寧省、そして吉林省などの農民工子弟を対象にした学校の聞き取り調査（教員と子弟を対象）の成果を盛り込んだもので、その内容は、故郷を追われる農民工の家庭が破壊される過程を描いているだけでなく、再結合するダイナミズムをも紹介している点、注目に値する視点も多く紹介してくれた。たとえば、円満な家庭を求める農民工子弟の欲求は、学校という別の場所で満たされる時があり、疑似的な親戚の絆が学校で再構成されることもあるという。とくに、新年を迎える旧正月ですらも家族で集まることができないという児童の生の言葉や、両親によって寄宿舎生活を余儀なくされている10歳の子供が発する「家庭」という言葉は、現代中国が直面している貧富の格差の問題が、すでに大人だけではなく児童の心をも巻き込んだ一大問題になっていることを余すことなく伝えてくれている、と言わなければならない。

勿論、これらの報告に弱点がないわけではない。たとえば、Huang氏の報告においては、欧米人の目を通して衛生概念を分析することの有効性を如何に克服すべきか、という問題が依然として残る。たとえば、中国人自身はどのように衛生の問題に取り組んだのか、また、欧米ではなく、日本人の記録の中でみえる衛生の記録は如何なるものであるのかなどである。実は、上海の衛生問題については、日本でも福士由紀『近代上海と公衆衛生』（御茶の水書房、2010年）が刊行されており、1927年の上海特別市衛生局の活動や1930年代の日中戦争

と上海の衛生問題などが究明されつつある。また、Chen氏の報告が捉える上海港湾についても、日本側の所蔵する外務省外交史料館の史料が一部紹介されているものの、まだまだ多くの課題が残されている。たとえば、大上海都市計画のなかで港湾の建設がどのように位置づけられていたのか、などについても触れる必要があるだろう。

しかし、それにもかかわらず、今後の中国研究が彼ら中国人留学生組の活躍によって牽引されることは疑い余地もない。とくに、Nana氏の研究で代表されるように長い期間の現地調査なしでは優れた研究成果を上げることができない社会学分野においては、より急速な変化が出てくることであろう。世界経済を牽引する中国の役割については言うまでもないが、学術研究領域においても中国の台頭は避けられない。その勢いを切実に感じた会議であった。



写真1 BICC Chinese Urban Studies Network Conference, University of Aberdeen, 16-18 January 2014 の会議の様子

China's Urban Environment, Past and Present
BICC Chinese Urban Studies Network Conference, University of Aberdeen 16-18 January 2014

Programme 16th January - King's College room KCG11
Introductory remarks, Dr Isabella Jackson, University of Aberdeen

◇ Panel: The historical environment of the treaty ports. Chair: Dr Toby Lincoln
(1) Deodorizing China: Odour, Ordure, and the Colonial (Dis)order in Shanghai, 1840s-1940s, Dr Huang Xuelei, University of Edinburgh
(2) The Relationship between the Harbor Coolies and the Spatial Character of Shanghai Whangpoo Harbor, 1880s-1930s, Dr Chen Yunlian, University of Cambridge / Nagoya University
◇ Panel: Art and literature in the urban environment. Chair: Dr Chris Courtney
(3) Floating through Beijing: migrant workers, agency and gender in contemporary Chinese fiction, Pamela Hunt, SOASA
(4) Look Behind the Façade - Representations of China's Monumental Architecture in Contemporary Art, Angela Becher, SOAS

17th January - King's College room KCG11
◇ Panel: Managing the urban environment. Chair: Professor Miles Glendinning
(5) Asbestos Pollution Deterrence, Victim Compensation and Allocation of Civil Liabilities Risk through Insurance, Dr Han Yongqiang, University of Aberdeen
(6) Becoming a Transition Town: The Case of Hong Kong and its implications for Building Eco-Cities in China, Loretta Ieng Tak Lou, University of Oxford
◇ Panel: Urban impressions. Chair: Dr Isabella Jackson
(7) City, Faith, and Political Opinion: A Study of Young Professionals in Beijing and Shenzhen, Phil Entwistle, University of Oxford

(8) Japanese Impressions of Shanghai as revealed in the Shanghai Guidebook(1920), Professor Son An Suk, Kanagawa University
◇ Panel: Challenges of the modern city. Dr Norman Stockman
(9) Building the "People's Home"? The transformation of British public housing in Hong Kong and Singapore, Professor Miles Glendinning, University of Edinburgh
(10) Experimenting with New Techniques of Governance in 'China's Manhattan', Dr Anna Boermel, King's College London
◇ Panel: Controlling urban populations. Chair: Dr Anna Boermel
(11) Children in rural-urban migration in contemporary China, Dr Nana Zhang, University of Warwick
(12) Getting the city to comply: Enforcement of the urban resident Minimum Livelihood Guarantee system between 1997 and 1999, Dr Daniel Hammond, University of Edinburgh

18th January - MacRobert Building room MR252
◇ Panel: The urban environment in crisis. Chair: Dr Felix Boecking
(13) The Urban Environment Under Water: Wuhan and the 1931 Flood, Dr Chris Courtney, University of Cambridge
(14) The Battle for China's Capital - Wartime Discussions on National Centrality, Dr Toby Lincoln, University of Leicester Roundtable discussion. Chair: Dr Isabella Jackson